慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	学習者の読解ストラテジーに対する認識と読みのプロセス
Sub Title	
Author	渡邊, 芙裕美(Watanabe, Fuyumi)
Publisher	慶應義塾大学日本語・ 日本文化教育センター
Publication year	2015
Jtitle	日本語と日本語教育 No.43 (2015. 3) ,p.43- 51
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論文
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20150300-0043

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学　日本語・日本文化教育センター紀要
『日本語と日本語教育』43：43−51（2015.3）

学習者の読解ストラテジーに対する認識と読みのプロセス

渡　邊　芙裕美

1.　はじめに

文章の内容を理解するために、読み手は読解中にスキミングやスキャニング、未知語の意味推測などの様々なストラテジーを使っている。このストラテジーについては、日本語教育分野においても、中級学習者や上級学習者向けの読解テキストで焦点が当てられたり、学習者を対象とした様々な研究が行われたりしている。しかし、学習者のストラテジー使用については、まだわかっていないことも多い。ストラテジーに関する研究では、質問紙を使って学習者の読解ストラテジーに対する認識を調べたり、発話思考法（Think Aloud Method）を使って学習者に読解中に行っている認知作業の内容を報告させ、それを分析したりする研究（e.g., 菊池，2004; 高橋，1998）が行われているが、それぞれ別々の研究として行われることが多いため、学習者のストラテジーに対する認識が実際の読みのプロセスにどのように影響しているかということについてはまだ明らかになっていないことも多い。

そこで、本研究では漢字圏の学習者の読解に焦点を当て、まず彼らが読解ストラテジーに対してどのような認識を持っているのかを明らかにし、そのストラテジー認識を踏まえたうえで、学習者がどのように日本語の文章を読んでいるのかを読み時間の観点から調べる。読み時間は読みのプロセスを知るための指標として多くの研究で用いられている（e.g., Calvo, & Castillo, 1996; Casteel, 2007; Linderholm, 2002）。例えば、学習者が読解中に予測を行っているかどうかを調べる実験では、それまでに読んだ文章の内

容、すなわち先行文脈から予測可能な部分の読み時間を調べ、短くなっていた場合に予測を行っていたとみなす（e.g., Rapp & Gerrig, 2006）。本研究でもこの読み時間を指標として学習者の読解プロセスを見ることにする。

2. 調査

2.1 調査協力者

協力者は漢字圏の上級レベルの日本語学習者 26 名であった。

2.2 質問紙

学習者の読解ストラテジーに対する認識を調べるために、質問紙調査を行った。質問紙の項目は先行研究をもとに 30 項目選定した。学習者に質問内容を確実に理解してもらうため、項目はすべて学習者の母語で書くようにした（資料参照）。学習者には各項目について、1（重要ではない）～5（非常に重要）の 5 段階で評価してもらった。

2.3 結果と考察

表 1 は学習者の評定値が低かった下位 5 項目を示している。「一つ一つの単語を母語に翻訳する。」（Q22）や「一つ一つの文の文法構造（主語、述語、構文等）を考える。」（Q28）、「一つ一つの文を母語に翻訳する。」（Q23）といった項目の評定値が低いことから、学習者が文構造を理解したり、細かく母語に翻訳したりするといったボトムアップ型のストラテジーを重視していないことがうかがえる。しかし同時に、「あまり重要でないと思われる部分は読まない。」（Q6）の評定値も低いことから、文構造の理解や母

表 1　評定値が低かった項目

	質問紙項目	平均評定値
Q22	一つ一つの単語を母語に翻訳する。	1.7
Q8	実際に声に出して読む。	2.0
Q28	一つ一つの文の文法構造（主語、述語、構文等）を考える。	2.2
Q23	一つ一つの文を母語に翻訳する。	2.2
Q6	あまり重要でないと思われる部分は読まない。	2.3

表 2　評定値が高かった項目

	質問紙項目	平均評定値
Q26	わからない単語の意味を推測する。	4.1
Q29	前に読んだ部分の情報と後から読んだ部分の情報とを関連付ける。	4.1
Q2	文章中の主要部分とそれ以外の詳細部分（主要部分の内容を詳しく説明する部分）がどこなのか認識する。	3.9
Q10	重要な部分に印をつける。	3.9
Q18	文章の内容に関係する自分の知識などを活用する。	3.9

語への翻訳には積極的ではないものの、必要な部分だけを抜き出して読もうとしているわけではないこともわかる。

一方、学習者の評定値が高かったのは、「わからない単語の意味を推測する。」（Q26）、「前に読んだ部分の情報と後から読んだ部分の情報とを関連付ける。」（Q29）、「文章中の主要部分とそれ以外の詳細部分（主要部分の内容を詳しく説明する部分）がどこなのか認識する。」（Q2）、「文章の内容に関係する自分の知識などを活用する。」（Q18）であった（表 2 参照）。このことから、学習者が未知語の意味推測や背景知識の利用、構成の把握といったトップダウン型のストラテジーの使用を重視していることがわかる。上記の項目に並んで評定値が高かった「重要な部分に印をつける。」（Q10）も文章の構成や主要部分の把握などのトップダウン型のストラテジーが関わる作業であると言える。

以上の結果は、学習者がボトムアップ型のストラテジーよりトップダウン型のストラテジーの使用を重視していることを示している。では、実際の読みでもトップダウン型のストラテジーを使っているのだろうか。この点を明らかにするために学習者の読みのプロセスを調べる実験を行った。

3.　実験

すでに述べたように、読解中に読み手が行っている認知処理を調べる多

くの研究では読み時間の計測が行われている。読み時間は読み手が読解中に行っている認知処理を反映するとされているためである。例えば、Millis, Morgan and Graesser（1990）は、読んでいる文の内容を前に述べられている内容と結びつける場合には、その部分の読み時間が長くなることを報告している。そこで、本研究でもコンピュータを使用して読み時間の計測を行った。結果の分析では評定値が最も高かった 2 つの項目に注目する。まず、「わからない単語の意味を推測する。」（Q26）については、事前に単語テストの形式で学習者の未知語を調べ、未知語を含む文の読み時間がどうなるかを見る。また、「前に読んだ部分の情報と後から読んだ部分の情報とを関連付ける。」（Q29）については、指示詞を含む文の読み時間を見る。これは指示詞が指している内容を理解するためには、前に読んだ部分の情報と関連付ける必要があるからである。この関連付けの作業を行っているのであれば、他の部分より読み時間が長くなると想定される。

3.1　協力者

質問紙調査を受けた学習者と同じ学習者に協力してもらった。

3.2　読解材料

読解材料として、アマゾンのマラリアに関する文章を使用した[1)]。内容はアマゾン地域でのマラリア患者の増加とその原因（開発やそれに伴う人々の移住）についてで、長さは 793 字だった。

3.3　手順

読み時間の計測はコンピュータを用いて個別に行った。本文は刺激呈示用ソフト（psyscope）を使用してコンピュータ画面に 1 文ずつ、長い場合には前半と後半の 2 つに分けて呈示した。学習者は画面上に呈示された文を自分のペースで読み、読み終わるごとにボタンを押した。ボタンを押すとすぐに次の文が呈示された。読解中、文が呈示されてから学習者が読み終わってボタンを押すまでにかかった時間が計測され、コンピュータに記録された。なお一度ボタンを押した後で前の文に戻ることはできなかった。

3.4　結果と考察

図 1 は学習者の各文の読み時間を示している[2)]。各文の 1 文字あたりの平均読み時間は 236.97 ms（*SD*＝54.35）であった。まず多くの学習者が重要だと考えている未知語の意味推測を実際の読みでも行っていたかどうかを調べるために、未知語を含む文の読み時間を見た。

実験前に単語テストの形式で学習者の未知語を調べた結果、26 名中 1 名しかその意味が答えられなかった単語が 3 つあった。そこで、これらの単語を含む文の読み時間を見ることにした。未知語を含んでいたのは、文 5、文 20、文 24 の 3 つの文で、各文の 1 文字あたりの平均読み時間は文 5 が 254.70 ms、文 20 が 288.67 ms、文 24 が 221.47 ms であった。全体の平均読み時間と比較すると、文 5 と文 20 が平均より長くなっており、特に文 20 は 20 ms 以上長くなっていた。しかし、文 24 では平均よりも短くなっていた。読み手が未知語の意味を推測していた場合に読み時間が長くなることを考えると、文 5 と文 20 が長くなっていたことから、学習者がある程度未知語の意味推測を行っていたことがうかがえる。しかし、一方で、文 24 の読み時間が短くなっていることから、必ずしもすべての未知語で意味推測を行っているのではないということが推測される。

次に、「前に読んだ部分の情報と後から読んだ部分の情報とを関連付け

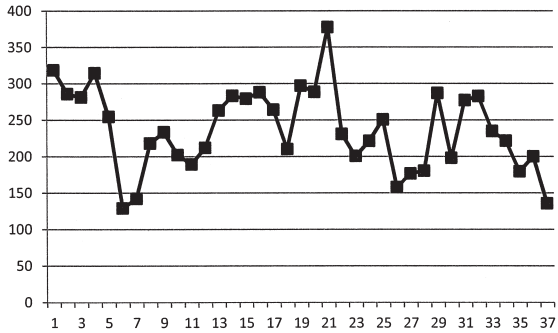

図 1　読み時間（ms/l）

る。」（Q29）作業を実際に行っていたかどうかを見るために、指示詞を含む文の読み時間を調べた。指示詞を含んでいたのは、文 10、文 16、文 32、文 35 の 4 つの文であった。1 文字あたりの平均読み時間は文 10 が 202.33 ms、文 16 が 288.09 ms、文 32 が 282.67 ms、文 35 が 179.51 ms で、文 16 と文 32 では平均より長くなっていた。このことは、これらの文で学習者が指示詞と前に書かれていた内容との関連付けを行っていたことを示唆している。一方、文 10 は 35 ms 程度、文 35 は 57 ms 以上も短くなっていた。これは、文 10 と文 35 では関連付けの作業を行っていなかったことを示唆していると言える。特に、文 35 は平均よりだいぶ短くなっていることから、学習者がこの文では指示詞の関連付け作業を行っていなかったことがうかがえる。

未知語を含む文と指示詞を含む文のそれぞれの読み時間の結果をあわせて考えると、質問紙で重要だとされたストラテジーは文章の前半部分では用いられるが、後半部分で用いられないことがあることが推測される。未知語を含んだ文で平均より短くなっていたのは文 24、指示詞を含んだ文で平均より特に短くなっていたのは文 35 であった。これらの文は文章の後半部分に位置している。後半部分になると、それまでに読んだ内容から今読んでいる部分にどのようなことが書かれているかがある程度推測できるために、立ち止まって未知語や指示詞の意味を考えることが少なくなるのかもしれない。

4. まとめ

本研究では、読解ストラテジーに対する認識を調べることを目的に質問紙調査を実施した。また、実際の読みでのストラテジー使用を調べるために読み時間の計測も行った。質問紙調査の結果から、学習者はトップダウン型のストラテジーが重要だと認識していることが示された。これは今回対象とした学習者が上級学習者であったこととも関係していると考えられ

る。上級レベルになると１つ１つの言葉を母語に翻訳しなくても理解できることが多く、また、上級者向けの読解テキストや授業ではスキミングやスキャニングに代表されるようなトップダウン型のストラテジーのトレーニングが取り入れられることが少なくない。これらのことも結果に影響していると考えられる。一方、読み時間の計測では、未知語と指示詞を含んだ文の読み時間に注目した。その結果、学習者は実際の読みで、重要度が高いと判断しているストラテジーをある程度使ってはいるが、いつも使用しているわけではないことが示唆された。この傾向は特に文章の後半部分で見られた。しかし、読み時間には様々な要因が関わっているため、今回の実験だけでは学習者の読解中のプロセスについて十分に検討できたとは言い難い。今後は各文の条件を詳細に検討し、それらを踏まえた上で読み時間を見ていく必要があると考えられる。

【注】

1）加納（1992）の研究で用いられた文章と同じものを使用した。
2）文の前半部分、あるいは後半部分のみの場合もあるが、便宜上すべて文と呼ぶ。

参考文献

Calvo, M. G., and Castillo, M. D.（1996）. Predictive inferences occur on-line, but with delay: Convergence of naming and reading times. *Discourse processes*, *22*, 57−78.

Carrell, P. L.（2001）. Influence of purpose for reading on second language reading: Reading procedural texts in ESL. *Reading in a Foreign Language*, *13*, 567−591.

Casteel, M. A.（2007）. Contextual support and predictive inferences: What do readers generate and keep available for use. *Discourse processes*, *44*, 51−72.

加納千恵子（1992）「読解指導の方法と過程―接続詞による予測・推測を利用した指導例―」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』7, 19−44.

菊池民子（2004）「日本語学習者の読解における『読みのスタイル』の多様性―使用ストラテジーの観点から―」『言語文化と日本語教育』27, 144−156.

Linderholm, T.（2002）. Predictive inference generation as a function of working memory capacity and causal text constraints. *Discourse processes*, *34*, 259−280.

Millis, K. K., Morgan, D., and Graesser, A. C.（1990）. The influence of knowledge-based inferences on the reading time of expository text. In. Graesser, A. C. and Gordon, H. B.（Eds.）, *Inferences and text comprehension*,（pp. 197-212）. Academic Press.

Rapp, D. N., and Gerrig, R. J.（2006）. Predictions for narrative outcomes: The impact of story contexts and reader preferences. *Journal of Memory and Language*, *54*, 54-67.

高橋亜希子（1998）「中級日本語学習者の読解ストラテジー—韓国人学習者の場合—」『言語科学論集』2, 85-96.

資　料

问题：您为了有效地阅读并理解日语文章、您认为以下的方法重要吗？

	完全不重要	没那么重要	不清楚	重要	非常重要
1. 阅读时、适当改变阅读速度。	1	2	3	4	5
2. 正确区别文章的重点和附属的细节。	1	2	3	4	5
3. 先读一次没能理解的时候、先停一下先前进。	1	2	3	4	5
4. 读一次不能理解的部分重新读。	1	2	3	4	5
5. 即使有读也没明白的部分、也继续读下去。	1	2	3	4	5
6. 一般认为不太重要的部分不读。	1	2	3	4	5
7. 在头脑中发出声音读出来。	1	2	3	4	5
8. 实际发声读出来。	1	2	3	4	5
9. 如果有不明白的单词、用词典查一下。	1	2	3	4	5
10. 在重点处做以标记。	1	2	3	4	5
11. 记笔记、归纳。	1	2	3	4	5
12. 根据文章的题目来推测文章的内容。	1	2	3	4	5
13. 一边阅览文章、一边预测下文的内容。	1	2	3	4	5
14. 注意文章段落间的关系。	1	2	3	4	5
15. 要考虑自己否正确地理解了文章。	1	2	3	4	5
16. 明确阅读的目标。	1	2	3	4	5
17. 开始阅读前、先决定阅读的方法、比如略读、还是精度。	1	2	3	4	5
18. 理解文章时、运用自己已经掌握的知识和经验。	1	2	3	4	5

19. 在头脑中想像有被写的内容。	1	2	3	4	5
20. 紧握文章全体的构成。	1	2	3	4	5
21. 考虑追求文章的重要性和真实性。	1	2	3	4	5
22. 将单词逐一翻译成中文。	1	2	3	4	5
23. 将句子逐一翻译成中文。	1	2	3	4	5
24. 将文章的某一部分换成自己容易理解的其他的说法。（例如：手を焼く→困る）	1	2	3	4	5
25. 思考读了这篇文章后的感想。	1	2	3	4	5
26. 推测不明白的单词的意义。	1	2	3	4	5
27. 考虑是哪种（说明文、故事等）的文章。	1	2	3	4	5
28. 理解每个句子的语法结构（例如：主语、谓语、宾语、句型）。	1	2	3	4	5
29. 把前面读到的信息同后面读到的信息连接起来。	1	2	3	4	5
30. 考虑文章里出来的单词如何发音。	1	2	3	4	5